北海道医歌人会詠草

今生の花

札幌　魚住あらた

平安はわがゆく道のつくづくと咲きつぎつづくわたわたの花
文欲はすぎゆくゐまの風なりとこれこそ想ふ三つ四つの風
けふをしも夏がきたよとつと想ふ今生の花に閑静ほしと
けふをしも足を曳く憂きこともなく地上のわれに春咲きの花
けふをしも夏がきたよとつと想ふ地上の花べロニカの花

逆立ち

札幌　山口　康徳

喧騒と気候変化をよくこなし無事帰還せるもののふ強し
筍を採りに出でしが意かなはずそのまま旅す死へのコースに
わが国は逆立ちせしや関東と北海道は気温変りぬ
観光を目ざす意欲はよけれども花採る代りにゴミを棄つるは
公道にナイフ探知機備ふれば多くの人ら凶器持ちをり

浪人時代

札幌　小国　孝徳

ニコライ堂の鐘を聞きつつ登りたるお茶の水駅の長き階段
聖橋見つつ朝々予備校に通ひたりしか昭和十年
浪人時代思ひ出づるにも武蔵野館の夢声の軽妙なりし活弁
レインコートまとへる淡谷のり子のブルースにしびれたりにき浪人吾は
エノケンの「森の石松」に身を捩り笑ひき日曜日の浅草に

痛み

札幌　古屋　統

医学的所見はなしと告げらるゝわが左膝三月痛むに
左膝コキンと鳴るを庇い立つ右のふと腿余計に突っ張る
違和感を嘆つ患者に「治った」のムンテラ幾度押付けしわれ
「癒ってる」「癒っていない」の押問答労災病院に昔修羅場ありにき
「癒った」と突っぱねる医師「癒ってない」喰い付く患者補償が絡む

初夏近し

帯広　中野　知弘

顔濡らしラムネ一本のみにけり祭の店に立ちゐし少年
奥十勝、川の瀬音に魚釣ると入り行く君か山女と授章
禿げあげてジャンパー着たる老人の連戦連勝名人倶楽部
三月ほど休みし後の勤めかな自転車こげば小春日そよぐ
今か降る雨薄墨に六月のわが行く道に画く点描派